

【**絶望の中**にいる人を救い出すイエス・キリスト】

説教者：鄭南哲牧師

本日聖書箇所：ヨハネの福音書5章1節—9節（新約聖書）

(Rev. Jung nam-chul)

*「私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」（ヨハネの手紙第一4章19節）

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！梅雨明け後、猛暑の日々が続いています。

新しく始まった一週間も日々主の恵みと平安に満たされて、心と体、生活の営みが守られ、支えられますように切にお祈り申し上げます。

<本文の内容>

今日の御言葉の本文を読んで見ますと、イエス様がエルサレムに上られた時、エルサレム東北(とうほく)側にある羊の門(聖殿で神にいけにえとして捧げる羊を運ぶ門である。ベンヤミン門とも呼ばれる)の近くに、ヘブル語で**ベテスダ**(意味：**慈悲、あわれみの家**)と呼ばれた池で起こった出来事です。

名前も知らない38年もの間、病気にかかっていたある一人が登場しています。聖書では、この人がどんな病にかかっていたのか、年齢もわからないため、いつから今の病気だったのか、はっきり出ていませんが、確かな事実は38年間の間も、今病気から何とか治る方法があれば、きっとさまざまな努力を尽くして来たはずでしょう。しかし、いくらお金を使い、時間を使い、人が出せる力を出し切っても自分を苦しめる体の病気と今の状況から変わりはありませんでした。ただひたすら彼が望んだのは、普通にみんなと同じように、生活をし、働きながら生きることを望んでいたかも知れません。いつのまにかもう生きる意欲もなくなり、自身の人生を恨みながら、歩けない哀れな自分の身と人生に対して愚痴話(ぐちばなし)で嘆きながら、挫折と悩みの日々を過ごして来た彼に、ある日この病人に糸筋(いとすじ)のような希望のうわさが聞こえて来ました！

それは、エルサレム城にある羊の門の近くに**慈悲、あわれみの家**と名前の意味を持っている「ベテスダ」と呼ばれる池がありますが、その池の水がかき回された時があり、それは天から御使いが降りて来ている尊い証拠だと多くの人々は信じていたようです。そのタイミングの時に、そのベテスダの池の水に入る人はどんな病気でも治って癒やされるという伝説のうわさでした。イエス様の時、このベテスダの水が温泉水だったという記録があるので、そのため、地下から温泉水が突然湧き出た時、水がかき回す現象をそのように人々は物語のうわさを作り上げていたと思われる。その温泉水の成分のため、ある病のところはきっと良くなったり、効果がある場合もあったはずですが、それではたしてすべての病が完全に癒やされたのか分かりません。とりあえず、歩けない彼は最後の希望をもって最後の力を出して、紆余曲折(うよきょくせつ)を経てやっとベテスダに着いたと思います。

1. 地上のバラダイスのように見えるベテスダ？ 絶望と死の入り口ベテスダ？

ようやくベテスダに着いてから、この38年間悪い、ずっと横になっていたこの病人は、もう自分もここでちゃんと癒やされて、自ら歩いて帰れる希望に満ちていたでしょう。今だに立ち上がれなかった自分の人生が願った通りにいっきに自分のとこを取り上げて、すぐ歩けそうになるような期待と自信感でいっぱいになったかも知れません。今までできなかった分、これからは自分の力で何でもできそうな日々の先が待っているような気がしたでしょう。

そしてベテスダに着いて周りを見ると、自分のように肉体の病でひどく苦しんでいる自分と似ている人たち人々ばかりだったので、今までかかわった誰よりも、このベテスダで集まっている様々な病人たちと、共感しながら、自分の苦しさ、大変さを一番よく分かってくれる人々ばかりだったので、どこの場所より居心地(いごこち)のよいところだったと思います。

みんなが自分の味方のように、他のところでは体験出来なかった非常に安心感も感じていたと思います。

このような意味として、この38年間も歩けなかった人にとって、ここのベテスダこそ最高の自分の居場所だとすぐ感じたのではないのでしょうか。

もっと早くここのベテスダを知ってここに来たら、寂しくならず、良かったのにと悔しく思われるほど、ここのベテスダの池のところはまるで38年の病人自分にとっては人生の最高のパラダイスのようなところだったはずでしょう。

<人が作り出した絶望と死の入り口のベテスタ>

しかし、まもなくこの病人は気がついたかも知れません。ここのベテスタは人を救う場所、希望に満ちて与える場所では決してないことを。逆に残りの望みさえ消えさせる絶望や死の場所であることを。なぜそうなったと思いますか。

みなさん、実際想像して見てください。病人は水がかき回された時に、池にだれより早く入らなければならないので、一気にみんな動き入ろうとします。ところが、今までよく笑い合い、温かく慰め合い、共感し合った周りの多くの病人の人たちの態度が突然変わってしまいます。水が少しもかき回されると、だれ一人先に必死にそのベテスタの池に入ろうとした為、一瞬大騒ぎとなり、一瞬みんなが冷酷な競争者になってしまいます。だれより自分の苦しみや人生の痛みを共感し、似てる辛い体験をして来たベテスタでの多くの患者や病人たちこそ、自分をだれより一番理解し助けてくれる、一番の味方たちだと思っていたのに、水がかき回されると、一瞬みんな表情と態度も変わってしまい、殺気がみなぎる雰囲気となり、だれもが自分の事じゃないことに一切関心もなく、誰一人この病人の為にも当然助けてくれる人は一人もいなかったのです。

かえて一斉に自分たちが先に入ろうとしたため、足を動けない彼がいくら上半身で必死に身を引かずってベテスタの池に近づこうとしても、だれより早くベテスタ池に入ろうとする人々からぶつけられ、邪魔者のように押し付けられたり踏みにじられたりして、命が脅かされるほど、一瞬地獄のように変わってしまったと思われる。さらにベテスタで今までこれほどまでに経験したことのない深い孤独とさびしさ、そして、絶望を感じていたのではありませんか。周りに自分のように病で苦しんでいた人たちもたくさんいましたが、その人たちさえも自分のことが背一杯で、また次回はいつベテスタの池の水がかき回されるか分からず、一生懸命にベテスタを見つめつつ、一瞬も目を離していけなさそうにあのベテスタの池に自分の全てが捕らわれ、束縛されてしまうようになってしまったことに気づくことになったでしょう。そのうちに、朝晩外で過ごしながらか、心も、体もますます弱くなり、もう死を待つしかない状況に陥っていたのです。

本文の7節を見ると、彼が後、イエスに出会った時、彼がベテスタとそこにいる人たちに対してどれほど恨んでいたのかイエス様にこう訴えていました。「病人は答えた。「主よ。水がかき回されたとき、池の中に入れてくれる人がいません。行きかけると、ほかの人が先に下りて行きます。」

ベテスタ池ではもし隣の人は死んだら、いつのまにか彼も含め、周りの人々の反応は表では悲しむふりをしながらも本音ではより‘よし！また一人の競争者がいなくなったぞ！次は俺がベテスタにもっと入れやすくなったぞ！’見たいに、ベテスタの恐ろしい冷酷な雰囲気で、周りの人が早く死んでほしいのを、実はみんなが願っていた殺伐（さつばつ）な場所に変わってしまったかも知れません。ですから、時間が経つにつれ、ここのベテスタという場所は、その病人にとって、どんな病気でも、病でも、人生でも直してくれる、人の願い通り人生を変えてくれそうなパラダイスでは決してなく、さらに人を絶望に陥らせ、人のみじめさを感じさせ、残っていた生きる自信と希望さえ、全てを失わせる、実は死の絶望的な場所だったことを痛感したのではないのでしょうか。

また、いつ池の水がかき回るのか、ずっと切りのない年月をベテスタで待ちながら、まったく先が見えず、きつとずっと外で寝泊りも続く生活の為、体も病もますますひどくなり、ぼろぼろになってしまったでしょう。もう彼は体も、心の病も限界に達していたかも知れません。無力で、意欲も、生きようとする力も断念(だんねん)させるところ、死を待つしかない、ベテスタは人を生かすところではなく、人を絶望させる死の入り口のようなところだったのに間違いありません。

ベテスタに来てからむしろ、ここに来る前、自分の町に住んでいた家族や地元の人たちこそ、心暖かくよく同情し、少しも必要な物を施してくれたり、何とか頑張って生きれるように助けてくれた時を毎日思い浮かべながら、今このベテスタに来たことを後悔し、周りの全ての人々や環境を恨んでいたのに間違いありません。もう周りの人々が怖い！もう彼にとっては、ベテスタと呼ばれる池はまったく救いの道、慈悲と哀れみの池ではまったくなかった！ますます人の命を奪おうとする地獄の入り口みたいなのところだけだと感じ、自身の人生を諦めていたかも知れません。もう不可能だ！

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん！

人が作り上げたベテスダのようなパラダイスのところ、万能なものが本当にあるのでしょうか。

今日もこの地上でそのようなパラダイスがあると、万能なものがある、そこへ行けば、それだけ人が手に入れば絶対幸せになるとささやき、人をだまし、そそのかしているのではありませんか。

家族を離れて、何にもかも捨てて、例えハワイに行けば、人は絶対幸せになるのでしょうか。高価な広い家とか、欲しい物を買えば人生がパラダイスに変わるのでしょうか。本当にお金さえたくさん手にいれれば、絶対幸せな家庭となれるのでしょうか。自分の願い通りできれば、天国のようになれるのでしょうか。

そういう意味として、教会も決して地上のパラダイスか、万能でもないでしょう。むしろ、人生の色々な悩みをおっている人々が集まっている病院のようなところではないでしょうか。

ベテスダでその尊い命と人生が消えていく状態の人生の絶壁の上に立ってもう落ちそうな状態だった彼でしたが、本文9節を読んで見ますと、「すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。」のです。彼にいったい何があったのでしょうか。どうしてそんなことが出来たのでしょうか。ベテスダの池の水がかき回されたとき、無事入れたからでしょうか。

<2. イエスキリストによる絶望から真の回復と救いへ>

いったいどうしてそんなことが38年間長く苦しみ、ベテスダにまで来ても何も変わらなかった彼が治り、癒され、回復される奇跡を経験することが可能になったのですか。一生懸命に自身の力で、努力で立ち上がろうとしてもむしろプレキーなしの絶望の下り坂に飛び出しているように無力で、人生を断念していた彼がどうやってそんな状況だった自身の人生が変わることが出来たのでしょうか。

結論から言いますと、彼自身からではありません！神の御子、救い主なるイエス・キリストが彼を癒やし、立ち上がらせて下さったのです(8節—9節) 病で苦しんでいた彼の人生を立ち上がらせるために、イエス様がまず彼の方に尋ねて来てくださったのです(6節) 「イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたいか。」」

今日イエス・キリストはベテスダ池のエルサレムの向こうでは大勢の人々がユダヤ人の祭りで喜び踊り、騒がしていたところに行かれませんでした。イエス様の関心は、たくさんの人々が集まって楽しんでいるそちらの方よりも、ベテスダの池で横になって顔を伏せて、身をうつぶせていた絶望のどん底におちいる一番助けが必要な彼のところにありました！そして、イエス様の方から直接彼のところまで来て下さいました。

世の中、ベテスダにいる人々すら、誰もが自分に関心もなく、注目してくれなかった名前も知らないこの38年間の病人に！神の御子なるイエス様がまず先に彼を見出して、彼のところにまで来られたのです！まず、先にイエス様が哀れみをもってこの病人のところまで訪ねてくださったのです！

今日のイエス・キリストの姿は、他の癒しの御業をなされる時とはちょっと違いました！

なぜならば、今日のこの病人は自分がまずイエスキリストを切に探したり、呼び求めたりしたわけではなかったからです。もっと正確に言いますと、今の病人にはもう一度もイエス・キリストの御元に体を動かして行ける力すらも、切に呼び求める気力すらも、だれ一人イエス様にまでかつがれて連れて行ってくれる人もまったくいない状態でした。

まだ、彼は他の人たちのようにイエス・キリストについて聞いたことすらなかったかも知れません。なので、当然自分に来られたイエス様がどんなお方なのかまったく知りませんでした！

13節を読んで見ると、「しかし、癒された人は、それがだれであるかを知らなかった。」と書かれているのを通してこの病人はイエス様が何方であったかすら、全然知らなかったことが分かります。

ですから、最初当然イエス様に対する知識も、信仰もあつたわけでもなく、かえて自分はイエス様と出会える前まで神様から捨てられ、呪われた人生だと思い込んでいたかも知れません。何か自分か、親かひどい罪の天罰なのか、神は自分を呪い、自分が普通にも生きる資格すらない者として造ったのではないか、神様からもあきらめてしまわれ捨てら

れた者じゃないのか、実は、神様にまでうらみに思っていたと十分思われます。そんな彼にとってはイエス様に出会う何の準備もできてない状態でした。

しかし、そんな彼だったのにもかかわらず、イエス様はわざわざその苦しみの中にいる彼を注目し、哀れみ深く見つめておられたイエス様はご自身から彼に尋ねて来られたのです。

①絶望のベテスダと生ける救いのイエスキリストと対照

愛するクリスチャンプレイズの信仰の家族のみなさん！

ここで、神の御言葉は、ベテスダと救い主なるイエスキリストを対照させています。

ベテスダは人の力で必死に努力し、頑張っただけで、でもどうしてもできない、立ち上がれない、人生を変えるのを、救われるのも不可能であることを気づかせる絶望のどん底(ぞこ)であった。

人の口から作り上げられ、伝えられて来たベテスダの伝説は、当時の多くの悩みや病にかかっていた人々が盲目的にただ従っていました。いったいつベテスダの水がかき回されるのか全然わからずに、とりあえず限りがなく死ぬ時まで無念に待ち続けるべきところ、結局人をさらに絶望と死の影が覆われ、陥らせるどころだったベテスダに、真のベテスダであられるイエス・キリストが自ら来られたのです！死の絶望の影に横になってどうしようもないその人に、救い主なるイエスキリストは、生ける命を、救いの御手をまず、差し伸べて下さって、彼を癒し、根本的な解決させ、真の回復を与えて下さいました！

愛する信仰の家族のみなさん！多くの時代が過ぎても、人は自分のベテスダを作り上げようとします。今日も人々がこの世の中でベテスダのような場所や物や人や宗教を作り上げて、そこに必死に自分たちの力で熱心に拝みつつ、自分の人生を人の力で必死に変えようとし、救おうとしている方々がどれほど多いのでしょうか。あるいは、そんなことすら諦めて断念して生きている方々がどれほど多いのでしょうか。日本中でもベテスダかのようなところはどれほど、多いのでしょうか。人の人生を縛り付けている自分の悩み、苦しみ、病気、痛み、罪、恨み、問題などから、完全に解放されるかのように一生懸命に努力し頼り続けている多くの人々の姿を我々は周りによく見られます。まるでいつかは分からないまま、何とか自分が状況が良くなればという漠然とした希望でも持とうとする多くの人々の姿がしばしば見えます。

しかし、今日イエス様はベテスダへの無駄な望みによって絶望の絶壁に立っていたこの38年間の病人の前においで下さいました！それで、この病人ははじめて自分の前に立てておられるイエス・キリストを見上げることが出来ました！今までずっと無駄に向いていたベテスダから、自分のまなざしを自分の前に立てておられるイエス・キリストに集めたのです。愛するみなさん！それがその病人が立ち上がれる、神の恵みを受けれる、神の御力を体験する始まりとなったのです。最近、みなさんはどちらへみなさんのまなざし、心を向けているのですか。

自分自身に、他の人に、あるいは、他の何かのものに、みなさんの人生のまなざしを変えないままのところへずっと向けさせたままで、繰り返し続けられるしかないでしょう。

しかし、実はずっとみなさんの前に来られ、立てておられ、待てておられるみなさんの救い主イエスキリストにまなざし、心を変えることから人生の真の変化は始まります！

②まず私のところにおいでになって下さる救い主イエス・キリスト

ヨハネの手紙第一4:10・19節によると、「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。19私たちが愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。」

ヨハネの福音書4章の傷だらけのサマリアのスカルの町の女にも、愛する息子をなくし悲しまれたナインの未亡人にも悪霊にとらわれ苦しんでいたマクダラ・マリアにもイエス様はまず！先に！彼らのところに来て下さいました。そして、どうしても悲しくて、苦しくて、人生の絶望から、死のかけなら立ち上がれるように御手を差し伸べて下さいます！愛をもって信仰を与え、勇気と癒しと力を与え、真の回復を与えて下さいました！

スコットランドのJ.Gスモール先生は苦しんでいた自分にもあの38年の病人の人と同様に先にまず我らにおいでくだ

さったキリストの愛と御恵みを覚えて、感謝の賛美を作りました！その歌が聖歌493番です。「1わがとも主イエスはわれを見出し引き寄せ給いぬ愛の糸もて御側に侍（はべ）れば何をか恐れん・今主はわがものわれは主のもの！2わが友主イエスは罪あるわれを贖い給（たま）えり命を捨ててこの身と魂をば主よ取り給え・全ては汝がものわがものは無し！3わが友主イエスはいとも優しく慰め励ました守り給う悩みも剣もえも裸も引き裂く能（あた）わじ・主よりわが身を！アーメン！」

その救い主イエス・キリストが今日、今も、苦しみ、疲れて悩んでいるみなさんにすでに、先に尋ねて来て下さっています！そして、神の愛の癒やしの御手を差し延べておられることをぜひとも忘れないで下さい！！

今日の挫折や苦しみ、人生の疲れはその病人に、かえてイエス様に会える祝福の機会となったではありませんか。
だれとも、どんな人でもイエス様は会ってくださいます！主はイザヤ預言者を通して旧約時代から今日も我々に仰せられます。イザヤ書55章6節「主を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。」
ヨハネの黙示録3章20節「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、その人のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。」イエスキリストに目を向けましょう！みなさんの心の扉を主に開き迎え入れ、今も我らに差し伸べて下さる主の救いの御手を、命の御手を！生ける恵みの御手を！回復の御手！をつかんでください！

③すでに我らのすべてを知っておられ、癒し回復させて下さるイエス・キリスト

イエス様は今までどれほど苦しんで来たのか、彼の過去の全ての痛みをご存知でした。（6節以下）

「イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。「良くなりたかか。」」今イエス様は苦しみの中うめきながら寝込んでいた38年間のこの病人の前に立って、彼を見つめておられます。この病人が今までどれだけ苦しみと痛みの時を過ごして来たのか、どれだけ死ぬほど寂しく、悲しい時を過ごして来たのかイエス様はすべてをご存知でした。

6節の中イエス様は「すでに長い間そうしていることを知った！」だと書かれています。彼はイエスキリストと初めて出会っても、イエスキリストはすでに彼の今までのすべてをご存じでした！ですから、イエス様がたまたまここにベテスタの池を見る為に来ている間とか、他の人と会うためでもなく、すでにご存じであった彼を憐れんで救うためにわざと来られたことが分かります！

だれもこの病人の苦しみについて知ろうとも、誰一人自分の悲しみと痛みを知る人もいないと思ったこの病人にイエス様はすべてをご存じで、彼にこう言われました。「よくなりたかか！」

この言葉はだれもがたやすく言える言葉では決してありません！どんなにこの世のどんな名をはせる名医であっても、自分が自らそう言える人はいません。医者自分自身がすべての病を癒やせる力を持ってそのように言える人はだれもいません。薬を飲んだり、病に合わせた治療を受ければ良くなるか、悪くならないように教えたり、助けてくれるのが医者の方の力の限界でしょう。人が、いくら、今の時代が革命的な先端科学や医学の技術が発達されていると言っても例え我はついこの3年間新型コロナウイルスという一つのウイルスによって、どれほど全世界を一瞬に苦しみ続けられたのか、改めてその限界をよく学ばされて来たものではありません。

「よくなりたかか」この御言葉を言える方はただ神様のみです！この言葉の意味はつまり「完全に癒やされたいのか回復されたいのか、解放されたいのか、救われたいのか。」という根本的な救いと回復へのお言葉でした。そして、

「8イエスは彼に言われた。「起きて、床を取り上げ、歩きなさい。」イエスは彼にそう宣言されると「9すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。」

私も個人的にこの御言葉の本当の力を体験したことがあります。何回も証ししましたが、私が神学校の伝道師の時、内の父と母はみんな癌でものごく大変だった時があります。父親は皮膚癌で、3回手術を受けてやっと回復されたと安心したら、ずっと看病し続けて来た母親が次はもっと深刻な血液癌で約1年間ずっと重病患者室で入院され抗癌剤治

療を受けられました。入院された病院はブサンで一番癌専門病院でしたが、完治率がただ 30%以下だけだと診断され担当医から言われました。血管を通して癌細胞が転移されてしまう可能性が高いと言われたのです。

一生涯いろんな大変な仕事もやりながら、父親のため、我々子とも 3 人のため苦勞ばかりされて来たわが母親のため、私はじめ、教会の方々がみんな断食の祈りをはじめ、私は祈るたびに涙が止まりませんでした。ある日早天祈り会の時頂いた主の御言葉が今日のこの御言葉でした！38年間苦しんで来た人の人生がまるでうちの母親の姿のようでした。そして、**“よくなりたいか”** 私はこの御言葉を主が私に、また母親に語る御言葉として信じ受け止め、**“はい、主よ。そうなりたいです。主よ。主の栄光の表すために、もう一度の人生を母親に下さい！”**と切に祈りました。また、母親にも分かち合い、母親ご自身からもそう応答し、祈るようにすすめ、母親も毎日切にすべて委ねつつ祈りました。神様はその願いと祈りに聞いて下さってもう30年ぐらいの年月が経ち、今もお元気で教会でのお仕事を両親ともに感謝しつつなさっています。

今みなさんにもそれぞれ、だれにも言えない悩みや苦しみに抱えている方はいませんか。今日も同じくイエス様はみなさんご自身よりも、すべてを知っておられます。今おかれている人生の状況も長い間のこともすべてご存じです。しかし、**すべてのご存じであるからこそ、我らを治すことも、回復させることも、救い出すこともおできになるお方**ではありませんか。

今もみなさんに語っておられるこの主の御声に、心からイエス・キリストを信じ、答えて見て下さい！

“よくなりたいか。”、**“アーメン！主よ。本当によくなりたいです。主よ。どうか私を助けて下さい。わたしを直して下さい。回復してください。癒やして下さい！そして、もう一度神の栄光を表す者として、立ち上がれるように力づけて下さい。”**と心から主に告白し、打ち明けて見てください。もし今自分が何か苦しんでいると、弱り張っていると何か神の助けや癒し、回復の恵みが必要な時に、今日のこの主の御言葉を抱いて祈って下さい。**主に自分の弱さと限界と認め、本当に主を信じ、心から主に委ねる人に、主が必ず顧みて癒やし、回復されてついにその場で立ち上がり踏み出してさらに前進して行けるように恵みの力を注いで下さると信じます。**

<まとめ>

愛するクリスチャンプレイズチャーチのみなさん！みなさんはどうですか。今も自分を苦しませる環境ばかり見つめながら座り込んでいませんか。**自分を苦しめている方向ばかりに向けずに、みなさんを今も相変わらず愛し、みなさんのため来られ待っておられる、イエスキリストを見上げて生きましょう。**イエスキリストこそ、真の神の慈悲と哀れみ、救いのベテスダであります「(ローマ人への手紙8章32節)**私たちすべてのために、ご自分の御子をさえも惜しむことなく死に渡された神がどうして、御子とともにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがあるでしょうか。**」

愛するみなさん！始まった7月4週目、猛暑の日々の中イエスキリストに頼り、キリストイエスにあって日々立ち上がる力を頂き、日々主のよくして下さる、回復させる御力によって感謝し、大胆に進み行けるクリスチャンプレイズの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によって祝福し、お祈り申し上げます。アーメン！

